

# 一般質問通告書

【第69回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様  
 多可町議会 笹倉 政芳



受 領 日	番号
平成28年3月7日 午前・午後9時16分	9

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 「ふるさと名物応援宣言」を受けて	町長
<p>播州織は皆さんご存じの通り西脇市や多可郡を中心に県下有数の地場産業として、200年以上の歴史を刻んできました。全盛期には企業数1,400件を超え、従業員数も21,500人を数え、正に播州織業界が地域経済を支えてきました。しかし、世界情勢の変化、特に昭和60年以降の急激な円高は輸出環境を一層厳しいものにしました。これに対し産地では、高級化や国内市場の拡大を図り対応してきましたが、市況は安価な輸入品の増加に加え、国内景気の低迷などから国内需要が大幅に減退し、今では生産数量も企業数もピーク時の約1割まで落ち込んでいます。</p> <p>今後は播州織業界が生き残りをかけて、これまで以上に連携を密にして準備工程の円滑化や新素材・新製品の開発など需要を伸ばす取組みを進めて行かなければなりません。</p> <p>現在は多可町の播州織後継者と商工会が大阪の上田安子服飾専門学校と産学連携を深めており、製造工程の見学の受け入れやファッションショーに生地を提供しています。2月に神戸で開催された「播州織総合素材展」でも学生と共同制作した作品で会場を盛り上げていました。将来は学生が一流のデザイナーに成長して多可町に移住し播州織を発信してほしいと期待しています。</p> <p>また西脇市に於いても昨年「西脇ファッション都市構想」事業を始められデザイナーや起業を目指す人材育成に取り組まれています。</p> <p>そんな中、多可町では平成28年1月29日付で「ふるさと名物応援宣言」を「北はりま定住自立圏」を形成している西脇市との共同により発表され「播州織」を両市町の“ふるさと名物”として認定されました。</p> <p>現存する産業資源を生かす為に、関連事業者に対しての応援施策はどのようなものを打ち出していかれるのか、また「ふるさと名物応援宣言」を同時に宣言された西脇市との連携をどんな形で繋げていくのか 町長の答弁を求めます。</p>	

## 2. 頑張れ！相生学院多可校

町長

3月2日の神戸新聞に「機動力重視で甲子園に」との見出しで相生学院の多可校へ、春夏通じて8度の甲子園出場を果たした北海道の北照高校の河上敬也監督が副校長兼任で監督に就任されると報じられました。

河上監督は昨年まで35年間、北照高校野球部の監督を務められ、平成22年と25年のセンバツで8強まで導かれ、これまでプロ野球界に11人の選手を送り出すなど、指導力に定評のある方です。「簡単ではないが、もう一度甲子園を目指したい真っ白なキャンパスに色をつけられる魅力がある。」と新天地での意気込みを語っておられます。

相生学院は平成20年度に通信制高校として創設され野球部は平成25年に創部、翌年夏の兵庫大会に初出場し、秋の大会では16強まで進みました。現在、44名がほぼ全員寮生活で午前の授業後、運動公園野球場を専用球場として練習しています。雨天練習場も2面あり、寮・教室・野球場が隣接する素晴らしい環境の中で、部員たちは日夜、学業と野球の技術・体力向上と精神力の強化に取り組み、あこがれの甲子園をめざして頑張っています。

私も高校時代に野球部で甲子園をめざしていましたので、運動公園の横を通る際には、「頑張れよ！」と声をかけます。また時々、野球部の皆さんが歩道のゴミを拾ってくれている姿を見かけ、頭が下がる思いです。

親元を離れ暮らしを続ける中で、生徒の皆さんに多可町を第2のふる里と思ってもらえるような、無理のないほのぼのとした地域との交流ができないかと思います。例えば、畑で収穫した新鮮で安心な野菜や果物等をお届けするといったことでもいいと思います。こんなことからでも交流の種をまく事が出来るのではないのでしょうか。

河上監督は就任会見で「小さいまち多可町のおじいちゃん、おばあちゃんたちに、野球を通じて元気を与えることが出来れば」と話されています。県立多可高校の生徒さんと商工会の未来創造実践部の皆さんが交流されているような事が少しでもできれば、多可町をより深く感じて頂けると思います。

河上監督は奥さんと共に寮に住まれ、公私両面で生徒を指導されます。相生学院の甲子園も近くに見えるようになり、監督を頼って入学してくる生徒もいるでしょう。近い将来甲子園出場、そんな時が来るかもしれません。そんなことを応援と期待をしながら今から学校と地域との交流の場づくりを進めることが多可町創生にも繋がるのではないのでしょうか？町長の答弁を求めます。